

ヘッセン州スポーツ連盟

フランクフルトスポーツ学校

(青少年健全育成政策)

平成20年2月6日(水)

[面談者]

ブリンクス氏(訪問者担当)

[通訳]

ヴォルフ・ディーター・ハール氏



○説明者 こちらの方、ヘッセン州の関係の教育センターです。教育センター、総合スポーツセンター、若い人や先生方が訓練、勉強のためにこちらにいらっしやいます。

近くにあるホテルの中に180台のベッドがあります。週末になると、あるいは1週間ぐらいの訓練、指導、そういう活動がございます。長くても1週間、普通は週末だけです。

ドイツ国内だけでなく外国からも優秀なスポーツの選手、先生がいらっしやいます。日本のナショナルチームのハンドボールの方、練習のためにいらっしやいました。

ドイツのスポーツ連盟の関係のところもあります。それと、ドイツのスポーツセンターの1カ所の村がありまして、オリンピックの一番偉い人の事務所は、こちらの総合センターの中です。ドイツのサッカーのFIFAの事務所もこの森の中です。

それと、ワールドカップのときのヘッドオフィス、ヘッドセンターは、こちらの総合センターの中でした。もうごらんになりましたか、新しいサッカースタジアム、これもスポーツの関係で使います。わざわざサッカーのワールドカップのために建てられました。

もともと私は、高校の体育の教師で、大学6年間スポーツ大学にいました。小学校の先生は4年間、高校の先生のスポーツの学歴は6年間必要です。それで、今は、インターナショナル関係の担当者です。

こちらの方に、若い日本人の生徒たちが交換で訪問しています。ドイツと日本から交換で、16歳から19歳までの高校生が、毎年、ドイツ全国から120人ぐらい、京都を訪問しています。そして日本からこちらに120人来られます。日本の各地方から12人ぐらいずつ選ばれ、ホームステイしながら、スポーツについての勉強をします。

ドイツからも同じです。ヘッセン州から12人、ドイツ全国から120人です。

2週間の間、欧州の各国からそういう若い人が来るんです。そうすると、滞在している2週間の間、すごく国際的になります。ドイツ人だけじゃなくて、フランス人、イタリア人など、そうするとドイツだけじゃなくて、皆さんすごくいい友達の関係になります。

○中井議員 それは、プロ選手じゃなくて、学生の人たちが来られるんですか。

○説明者 ほとんどが16歳から19歳のドイツというギムナジウムの生徒、日本でいえば高校1年生、2年生、3年生ということになります。

○中井議員 スポーツの種類はどんなものがありますか。

○説明者 私の専門はテニスと水泳ですが、すべてのスポーツが対象です。

○中井議員 登山もありますね、写真貼っておられましたから。

○説明者 スポーツだけじゃなくて、芸術の関係の皆さんのものも多いですよ。

この壁をごらんください。これは全部スポンサーです。まず、ロト、totoは宝くじ、有名な保険会社、健康保険、銀行、お水・飲料の関係、電力会社などです。

宝くじについては、ドイツの場合は各種類あります。それで、イベントの運営の80%が、ロト宝くじの関係で入ってきます。

○土師議員 それは大きいですね。

○説明者 大きいですよ。サッカーとロト、t o t oです。



○土師議員 Jリーグと同様のようなですね。スポンサーメニューについて、もう少し詳しくお教えいただきたいのですが。

○説明者 生命保険、時計、健康保険、ドイツで2番目の銀行、電機・家電の会社、こちらのヘッセン州の電力会社などです。

○土師議員 この小さい協賛企業はいかがですか。

○説明者 太陽熱の技術の会社で有名な会社、セントラルヒーティングの会社です。

あとは、冬の間、そういうイベントになると、暖房会社からお金をもらうんです。

ドイツのサッカー女子代表が、2007年ワールドカップでナンバーワンになったじゃないですか。そのトレーニングセンターは、こちらのオリンピックセンターの中です。代表にはヘッセン州から3人選ばれました。

それでは、施設内をご案内します。まず、勉強の関係で教室の数が多いです。

例えば、保険会社、銀行などから依頼があれば、教室を賃借します。そうすればそれが収入になります。

こちらは、水泳のトレーニングセンターです。

優秀な人のことだけじゃなくて、身体障害者のことも考えなくてははいけません。そういう身体障害者のための先生の訓練というのもあります。

○池田議員 身体障害者のための先生ですか。

○説明者 水中温度とか、リハビリテーション、各村・町に、そういう施設があります。訓練のために、こちらの方にいらっしゃいます。

○池田議員 先生のトレーニングをするのですか。



○説明者 先生のトレーニングです。プールの方をごらんになってください。プールの長さはちょうど50メートルです。けれども、もし必要であれば、半分にすることができます。25メートルと25メートル。そうすると、2つのチームの訓練、練習もすることができます。それで、近くにある学校の生徒たちも来るんですよ、多目的利用で。

向こうの方、カメラがついています。スタートのときの練習、訓練を専門の医者などを使って研究しています。例えば、ジャンプしたときの圧力についての研究もしています。それで、一方では、多目的な利用、できれば1カ所でも多目的に使えたら、やっぱり便利になります。

ドイツの方は割合少ないけれども、ここはアーチェリー、日本は強いですね。

○池田議員 ここは多目的にグラウンドだけじゃなくて、アーチェリーもできるんですか。

○説明者 そうです。

ここは、各スポーツの担当者が共同して管理しているところです。

この部分は一輪車の訓練をするところです。だから、その練習のためにいつもぐるぐる回っています。あっちのゴールはどんなスポーツのものだと思いますか。自転車のサッカーのゴールです。

○池田議員 健常者がやるんですね。自転車に乗りながらサッカーを。

○説明者 こちらは助産師さんの勉強会です。法律の改正で、男の人にもなることができるよう

になりました。

ドイツの場合は、医療はただです。お金がかかりません。それで、最近30%の人が自分の家で出産するんですよ。そういう講習も行っていきます。病院じゃなくて、お家の方、あるいはお湯の中での出産とか、いろいろあります。



○説明者 これは、今とても人気があります。向こうの方、20メートルの高さのクライミングの壁ですね。こういうものは、センターの中、3箇所あります。ホテルの外の方にも同じものがついています。

○水谷議員 先ほど、助産師さんの法律が変わったとおっしゃいましたが、いつから変わったんですか。

○説明者 二、三年前からです。男性が助産師になれないことに対する裁判があったんですよ。それで法律が変わりました。それでもやっぱり、女の人がほとんどです。さっきもお話しましたが、今自宅での出産が流行になっています。ドイツの出産の30%が病院じゃなくて、自分の家です。そうすると、男性の助産師も必要になってきています。それで今、ドイツの父親の90%と一緒に出産に立ち会っています。

○水谷議員 日本はそういう人が少なくなって、産むところがなくて、大変な状態なんですよ。

○説明者 そうですか。それで今、お湯の中とか、自然に近い出産がはやっています。

ここは、週末になると子どもを預かってくれるところです。それから身体障害者の子どもたちの先生が勉強するところです。これは、あんまり上手に歩けない子どもたちの歩行器です。上のスクリーンは、身体障害者の子どもたちのために、簡単な訓練するんです。切り絵を使って自分の表現のために、体だけじゃなくて、心のためにここで訓練します。



○土師議員 このようなトレーニングセンターは、ドイツに幾つあるのでしょうか。

○説明者 ドイツは16州ですので、少なくとも16はあります。



○説明者 この部屋は多目的に、踊り、バレエとパーティーなどに使います。映画館としても使いますし、会議のためにも使います。割合広いから、200人ぐらい収容できます。

例えば、センター以外の会議に貸し出したりします。そうすると、それが収入になります。